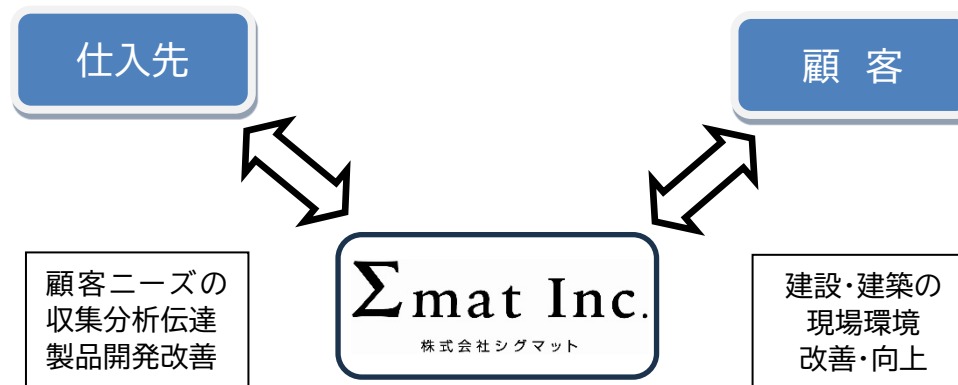


シグマットにおけるDX取組について

1. 経営ビジョン

昨今の建設業界におけるサプライチェーンを取り巻く事業環境の変化に対応するためには、社内のデジタル化推進によるモデルの革新が大きく求められています。シグマットは、創業以来60年以上「総合建材商社として地域社会の豊かな発展に貢献すること」を目標として、東北6県を中心とした販売基盤を築き、地域の発展に寄与する事業展開を心掛けて参りました。また、当社の所属する佐藤グループが理念に掲げるところの「佐藤の社員でよかったと言える会社をめざす」を、こうした経済活動だけでなくサステナブルな取組としてSDGsや健康経営に積極的に取り組むことで実現を目指して参りました。

今後は、DX活用により、労働時間の短縮、育児休暇、有休取得促進をさらに進めると同時に、社員の処遇改善、賃上げをさらに進めるなどの労働環境の改善と、企業として事業収益の最大化を通じ、これまでのSDGsの諸目標達成を図りながら持続可能な社会とその社会に対する貢献を実現目指します。その為には、デジタルツールの活用を通じて、新たな付加価値創出を効率的にできる環境と人材の育成を着実に実行していく考えです。



サプライチェーンが協力しチェーンバリュー向上を目指す

2. DX活用の具体的戦略

(1) 社内業務の効率化による作業時間の削減

① 定型業務でのノーコード・ローコードアプリ開発ツールである「kintone」の活用

営業活動上で生じる営業とアシスタント、アシスタント同士、管理職間の様々な定型業務を自らの手でアプリ化することで業務効率、生産性を引き上げます。

② 高性能複合機の活用推進でペーパーレスによる業務効率化

FAX等のデータは逐一紙で排出せず、デジタルデータとして共有・保存を進め、デスク上のPCを通じて加工編集することで、いちいち席を立たずにFAX等の受領、情報加工、回答返信、共有、指示連絡、保存まで一貫した作業標準を確立して、作業工数を削減し確実性、事後の検索容易性、スピードアップを図ります。

※上記業務のデジタル活用で効率化を促進し、業務内容の効率を向上させ、より信頼性が高くスピーディーなサービスをお客様に提供できる体制を構築します。

(2) 営業体制強化による売上増強

売上・利益増強目標達成までのプロセス

① SFA(戦略的営業支援システム)システムNIコンサルティング「顧客深耕日報」「NIコラボ」の活用

営業活動を量的にも質的にも効率改善のためのデータを蓄積し分析することで、最適パターンの確立や非効率活動の洗い出しとその改善と通じて、短時間でも収益を向上させる取り組みを強化します。

② データサイエンス基盤整備

販売管理システムと人事管理システム、SFAなどあらゆるデータを統合分析利用できるキーエンス社「KIプラットホーム」を活用し、データ分析手法習得の為に担当に対してキーエンス社側より伴走支援受けることにより、速やかな専門人材育成はかることで、諸課題の優先順位付けや改善点をピンポイント且つ迅速に抽出することで、売上・収益改善を着実に実施します。

③業務集約と専門化の併行推進

既存事務作業はITツールの活用を通じて効率化図り、少人数でこなせるよう集約を進め、余剰人員を営業アシスタントとして専門化教育を施し、より深い知識をもって業務あたれる様育成していきます。

④お客様サービスの向上

③の改革を通じて、人が行うサービスとツールが対応するサービスを組み合わせ、正確性とスピードアップによる顧客満足度の向上を目指します。

3.DX推進体制(組織・人材)

組織体制

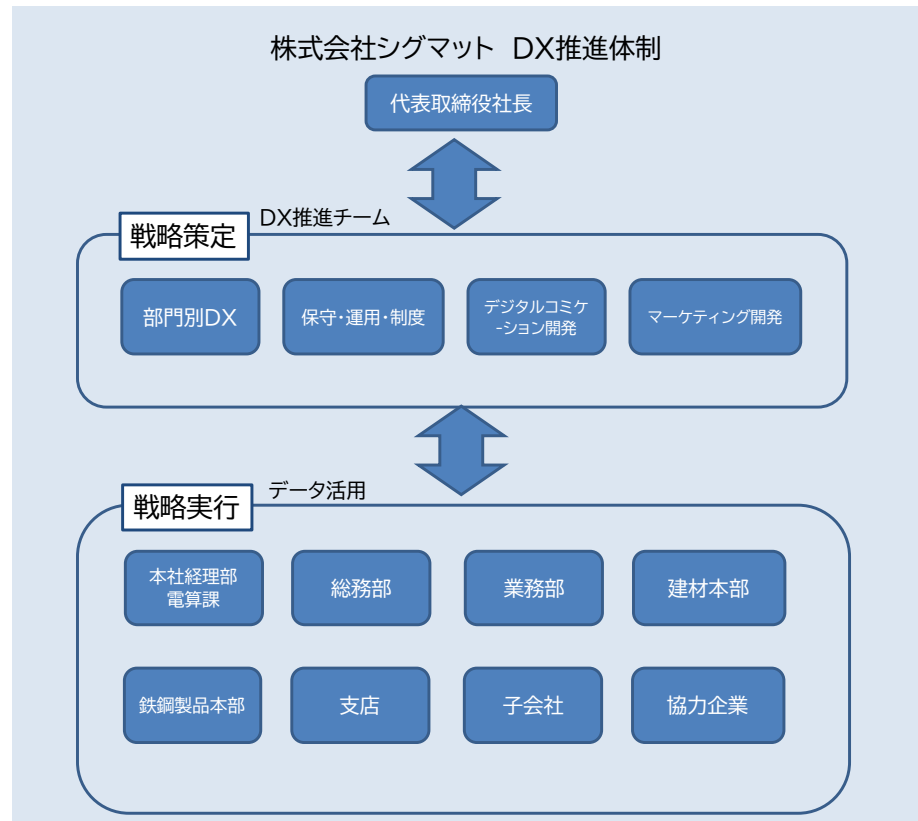
代表取締役社長が直轄する、組織を横断したメンバーで構成された「DX推進チーム」を立ち上げ、DXを推進しています。

人材育成

リアル又はWEB会議システムでの社内勉強会を外部の講師の協力も仰ぎながら継続的に実施し、その結果育成した基軸人材を中心とし、さらに社内に輪を広げる若手人材育成に取り組み、組織全体への浸透を迅速に精度高く実現できるよう取組みます。

システム連携

統合型新基幹システムに周辺システムの連携を強化しますが、社員が自ら携わりITインフラを整備する体質に変革していきます。



4.DX推進の環境整備の具体的方策

1. 基幹システムを新統合型基幹システムへ更新

提携ベンダーとスクラッチ開発 2024年1月本稼働予定

2. 上記システム以外の業務改善アプリ化ツール採用

ローコード・ノーコードアプリ開発ツール導入し、伴走支援契約結んだ外部講師交えて開発運用支援進捗会議毎月定例開催

3. データサイエンス基盤プラットフォーム導入

導入契約に伴い活用支援契約に基づき、専門人材育成及び機能理解のための経営幹部層研修毎月開催

4. FAXの電子化及び文書加工・後工程処理効率化

パイロットケースとして宮城支店において先行運用テスト開始後、ノウハウの社内展開推進

5.DX推進戦略達成目標

2023年度 統合型基幹システムへの更新・本稼働

2023年度 定型業務内製アプリ設計活用で業務効率向上

自社開発 5本

2023年度 データサイエンスプラットフォーム活用

売上 前期比5%増

総利益率 前期比3%増

6.DX推進統括責任者からの推進メッセージ

DXの推進は、いかなる産業においても、グローバルな変化に背を向けていては、発展するどころか維持することさえ難しい時代が到来するものと考えています。建設・土木の分野においても、事業を展開するための人材の確保は、他業種との争奪戦に入っており、労働環境や処遇の改善は必要不可欠であり、その意味するところは、それらの実現の為の新たな付加価値の創出であります。人的努力だけでそれらの課題を克服することは不可能であり、デジタル技術の活用を通じて生産性向上しか道はないもの捉え、人的資本の拡充のための投資を合わせて、ITツールへの投資も積極的に行い、人とデジタル技術の融合を通じて、企業理念と持続可能な社会の実現の為の経営改善を推進してまいります。

DX推進統括責任者 代表取締役社長 林秀敏